

## 研修報告書 No. 8

研修先： 医療法人臼井会田野病院、馬路村立馬路診療所

12月3日から12月28日にかけての合計4週間、高知県で研修させていただいたことを報告します。主としては田野病院、そして馬路診療所での研修となりました。

研修の内容の前に、高知県についての概要を述べます。高知県は、北は四国山地に囲まれ、南は太平洋に面する長い海岸線を有し、山地率が89%(全国平均は60%程度)という地理的特徴を有する県です。人口構成は、平成29年時点で、15歳未満は約8万(11.4%)、15-64歳は約38万(54.5%)、65歳以上は約24万(34.2%)で、平成23年から比較すると、64歳以下の割合は低下し、65歳以上の割合は上昇しています。一方、日本全体の人口構成比率は、15歳未満が12.3%、15-64歳が60.0%、65歳以上が27.7%であり、日本全体と比較して高知県の人口構成は高齢者の割合が高いと言え、日本の未来を反映している部分もあると考えます。また、産業は第二次産業に比較し第一・三次産業が多いことも特徴と言えます。

田野病院での研修では、外来や手術、病棟といった、ある種これまでの研修で馴染みのある部署を始め、薬剤部・リハビリ部・検査部・放射線部といった、院内の各部署の見学、そして、乳児健診や訪問診療・看護・リハビリ・ヘルパー見学、3施設の開業クリニック、介護老人保健施設、といった院外部門の見学をさせていただきました。また、見学と同時に学会発表の演題をいただいたり、1ヶ月間の研修振り返り発表をさせていただきましたり、と学んだことを自分の中でまとめ直す時間もいただきました。今回研修させていただいた田野病院は、県東部に位置する安芸保健医療圏にある、私設の二次救急病院です。県最東部の室戸市には二次救急対応の病院がないため、室戸市での患者搬送には田野病院や、そのさらに西部の県立あき総合病院、ひいては中央保健医療圏の病院まで搬送することとなります。また、訪問診療や看護も室戸市まで対応していらっしゃいました。

馬路診療所は、その名の通り馬路村にあります。今回の研修では馬路診療所、魚梁瀬(やなせ)診療所の2つを見学させていただきました。馬路村の人口は1000人を切っており、医師1人、看護師2人、事務員1人で馬路診療所と魚梁瀬診療所の2つで対応されていました。診療所で働かれている先生は、1年毎に任期が変わるとのことでしたが、自分の専門・専門外を問わず診療にあたっていらっしゃり、また患者からの信頼も厚く、これから医師3年目を迎えていくにあたり、感じるが多かったです。

自身の出身が田舎であることから、高知での研修が始まるまでは、きっと地元 に似た状況なのだろうと、ともすると知っている気でいましたが、実際今回短期間の間に濃縮して問題点を見せていただき、先生方を始め多くの職種の方や患者さんから話を伺うことで、医療も含め、地域の抱える問題を何もわかっていなかったことに気づかされました。そして、多くの問題は「画面の向こう側で起きていること」ではなく、自分の延長線上にあるということ、

すぐに究極の解決策が見つかるわけではないものの、問題を見ないふりをするのではなく、常に頭の片隅にでも良いから置き続け、自分の置かれた場所からできることをしていくことが必要だと気づかされました。そして、もう一つの学びとしては、得てして問題が目の前にないと、つい強者の理論に走り、効率・合理化に重きを置きがちとなり、実際にそこで生活を営んでいる人のことを置き去りにしてしまいがちになる、ということです。一方で、目の前にある問題のみに集中していると、長い目を見たときどう変化しているのが良いのかという視点も失われてしまい、そのどちらの眼差しも持ち、問題を俯瞰することが必要と胸に刻まれました。

最後に、研修を快く引き受けてくださり、医療のことのみならず多くのことを教えてくださった、田野病院・馬路診療所をはじめ、多くの診療所の方々、今回の研修をコーディネートしてくださった、高知医療再生機構の方々のお陰で、1ヶ月という、長いようで短い期間を濃密に研修させていただくことができました。この場をお借りし、厚く御礼を申し上げます。